

足立区地域経済活性化会議 第三部会

【議事要旨】

1) 日時・場所

日時：平成 29 年 8 月 4 日（金）15 時 30 分～17 時

場所：足立区役所 南館 12 階 1205A 会議室

2) 出席者

有識者) 中根部会員（部会長）、入江部会員、渡井部会員
事務局) 足立区：高橋事務局長、島田課長、池田係長、鈴木主査
富士通総研：高橋、松田

3) 次第

■ 検討事項

(1) 次期 足立区地域経済活性化基本計画の施策体系案及び施策案について

4) 配布資料

資料 1 部会員名簿
資料 2 席次表
資料 3 次期 足立区地域経済活性化基本計画の骨子
資料 4 次期 足立区地域経済活性化基本計画の章立て(案)
資料 5 計画の骨子から施策体系案を作成するにあたっての考え方
資料 6 次期 足立区地域経済活性化基本計画の体系案
資料 7 平成 29 年度第 1 回経済活性化会議 会議録要旨(案)

4) 参考資料

1 現行の足立区地域経済活性化基本計画（冊子）
2 区民消費・産業実態に係るアンケート等調査報告書
3 足立区経済活性化推進事業一覧
4 地域経済の発展をうながす活力あるまちづくり
（足立区都市計画マスタープラン(案)より抜粋）
5 エリアデザインによる足立区の挑戦

5) 議事録

【開会・挨拶】

島田課長より「足立区経済活性化会議第三部会」開催に係る挨拶があり、中根部会長より本日の流れについて説明が行われた。次いで池田係長より、資料4～資料6に係る説明等が行われた後、以下の通り意見交換が行われた。

【意見交換内容①】

中根部会長：まちづくりの中心は商店街であり、商店街を活性化させる中での代表的な試みはイベントになると思う。しかしながら、イベントは一過性になりがちであり、それらをどのように改善していくのが重要だと思う。商店街のヒアリングを行う中で、チェーン店の店長ではイベントに参加する際の権限を持っていなかったり、夜の商店は主に商店街に協力できなかったり等、商店街の結束力が必ずしも十分でないように感じるが、実際足立区内の商店街の実情はどのようになっており、どのように対応されているのか。

もう1つはケーブルテレビなどのコミュニティメディアについてお聞きしたい。地方のケーブルテレビでは、25%の視聴率があり、その視聴者の多くは、近所づきあいをしている傾向が高く、また地元の組織への加入率が高いという特性があった。鳥取県の米子市にある中海テレビなどでは、地元企業や市民を巻き込んで活動をしており、いわばコミュニティメディアがつなぎの役割をしている。足立区内でもケーブルテレビを情報発信や街の活性化を図る1つのツールとして有効活用できないだろうか。

入江部会員：商店街の活性化はよく言われているが、どの商店街も似ていて差別化が図れていないように感じる。各商店街のカラーを創っていく、もしくはブランド力が高い店舗を中心に個性を出していく必要があると思う。

渡井部会員：一部の商店街の人たちは、自分たちで新しいことをしたくないという気持ちがあり、中々上手くいかないところがあると思う。外部からアドバイスがあり、一緒に改善していかない限りは難しい部分がある。また、メディアに関しては、ケーブル足立などがあるが、インターネット放送が千住を中心に定着しつつある。番組数は日本で一番多いほど活発に活動しており、このようなところに中核になっていただきたいと思っている。

あだちの魅力の発見ツアーについて常々思っていることだが、足立区の昔がたりにおいては、徳川家3代将軍の家光が足立区島根の安穩寺に立ち寄った際に、焼き豆腐と青菜の吸い物を食し、褒められたとの逸話がある。そのように古い歴史があるわけなので、ロマンを持ち、そのような楽しいストーリーをつなげて足立区の魅力を創出し、ツアーを組んだら良いのではないかと考えている。千住の街歩きは様々な団体関わっている。千住以外のところ

を如何に盛り上げていくかという視点も必要だと思う。

FRI 高橋 : 商店街でのイベントは中々難しいですが、イベント自体が日頃商店街に来てくれるためのショーケースにしようと考えながら関わっている。イベントのためのイベントになってしまうのは勿体ないので、イベントを行う際は目標を立て、地元の方々にも関わっていただき、将来的には実行委員会形式で行い、人々が来て、楽しみ、このような店があるならまた来ようという場や機会に仕上げていくことが必要だと思う。しかしながら、母体となっている組織は商店街なので、まずは商店街が中心となって行わざるを得ないこともあるが、徐々にそのような目的、ストーリーを持ち仕掛けていくことが必要だと思う。イベントでは回遊性とともに関わり、居心地の良い場所の発見としての演出もできると尚良いと思っている。

中根部会長 : 居住年数が 20 年以上の 4 割強の人達は街に対し積極性があるというデータがあり、一方居住年数が少ないと郷土愛が少なくなってくる。そのような居住年数が少ない人たちに対し、どのように対応していくのかも重要である。またテレビで見た話であるが、茨城県は旧街道が日本で 2 番目に長いことを用いて活性化を図っているようだ。足立区にも日光街道があるので、日光街道を資源としてストーリー立てを行い、アピールしていけないかと思う。また、以前足立区のタクシーに乗車した際に、運転手が「地方から東京に来る人達は大体足立区に来る」と言っていた。足立区は日光街道の入り口でもあるので、それを延長させ、1つの資産として観光に活用できるのかとも思うが、現在そのような取組を足立区では行っているか。

島田課長 : 芭蕉サミットを毎年行っている。

渡井部会員 : 足立区には千住のやっちゃば、石畳など歴史や資産があるが、それらを現代のただの道で終わらせてしまっているのかもしれないと思う。そこで最近思うのは、VR を利用してかつての旧日光街道の映像がリアルタイムにリンクして見ることができれば、来街者も増加するのではないかと思う。例えば、バスの窓が VR の画面になり、実際の外の風景と重なり、バスの窓から見える風景が江戸時代の中をバスが走っていたら面白いと思った。

中根部会長 : 浅草では忍者を用いて、インバウンド効果を狙っているようである。

FRI 高橋 : VR はストーリーがあると良いと思う。会津若松市では戊辰戦争、新選組などをストーリー立てている。

渡井部会員 : 足立にもストーリーはいくらでもある。千住は四大宿場町の中でも最大であり、本陣と言われる大名が泊まれる宿がある。宿場町の風景を再現し、大名行列を再現していけば良いと思う。また、千住のやっちゃば、松尾芭蕉、森鷗外などの歴史もある。

中根部会長 : タイミング良く、ドラマで取り上げてくれると良い。品川では旧品川宿で坂本

龍馬が居住したところであるが、ドラマで取り上げたことで来街者も多くなっただけらしい。

渡井部会員：坂本龍馬のいいなずけは千住に住んでいたらいい。ちなみに今回の計画は、2020年も含んでいるのか。

島田課長：8年間計画であるので、2020年も含んでいる。

渡井部会員：外国人を呼び込もうという意図もあるのか。

高橋事務局長：インバウンドも意識しながら取り組みを行っていく。

入江部会員：足立区で観光案内する際に、中々案内できる所がないので、やはり外国人の方は渋谷や浅草にいつてしまう。足立区の魅力が何かというと、人のつながりだと思えるので、足立区の人に接してもらえるような勧めをしている。例えば、加賀屋では常連客が厚いおもてなしをしていただけるようで、とても満足度が高い。また、最近は小学校の風景を見せるなど、都会では中々できないことを行っている。イベントも西新井ではウォームアップフェスというイベントを行っている。地元の8店舗と共に企画を行い、イベントを開催している。初めは100人程度であったが、徐々に増えていき200人になった。商店街の人達とのつながりも出てきたし、地元の方々への店舗の情報発信にもなっている。西新井大師の英語サロンでは、中高生が英語を勉強しても発表する場がないということで、エンブレムの場を利用している。

中根部会長：住民との交流の場があると良い。国士舘大学でも留学生たちを呼び、それぞれの国の料理を紹介すると、地元の人たちが楽しみにしていた。また、宇都宮にユニオン通りという通りがあり、そこはファッションで有名で宇都宮の原宿と言われており、県外からの人が訪れ、コミュニティができている。足立区でも各商店街でコアなものを見つけ出し、情報発信していけば違ってくるのではないかと思う。

入江部会員：西新井の店主の方たちとお話しする中で、徐々に人間関係ができてくると話もしやすくなると感じている。関原商店街を良くしていきたいと考えている人たちが沢山いる。

中根部会長：世田谷区の松陰神社商店街では、道路の舗装を行いたいと区に要望を出した。それに対し、冷淡な個店もあったが、積極的な個店が区に働きかけ、うまくいった。ところが冷淡な個店がきっかけで、それに乗って、苦勞した商店街の個店の方々が心穏やかではない状況になっている。人間関係をどのように上手く構築していくかは大事である。

入江部会員：足立区は夜に遊ぶ場所がないので、外国人の方々は、皆渋谷に行ってしまう。北千住にクラブなどがあってナイトライフも楽しめるようになると良い。

島田課長：北千住には、ニーズがあれば、関わってくる人が出てくる街だと思う。

入江部会員：先日、春のイベントを開催した時、足立区のオーケストラバンドに出演いただ

いたら、とても盛り上がった。足立区役所の方々にアーティストや芸子なども紹介いただくこともあり、そのような情報提供は非常に助かる。

渡井部会員：1つ提案であるが、街づくり、街興しなどの活動を行っている人たちを観光交流課が取り上げ、ときめきの中に記載するのはどうだろうか。ときめきの読者は多いので、そこに掲載することで、街のイメージも変わっていくような気がする。

高橋事務局長：エリアでの取組発信はまだ取り組んでいない。シリーズものなので、うまく続いていけるかは心配である。

池田係長：私が住んでいる市でも行っているが、人に関する情報発信は面白いと思う。

渡井部会員：人にフォーカスするのではなく、やっているコト、物語をビジュアル化して見せることが必要だと思う。

入江部会員：西新井では何かしたいと思う人が結構いる。

渡井部会員：そのような方々を、行政側が中心となり、見つけて掲載していくと良いと思う。千住以外は意外と目立たないが、活動している人はいると思うので、発信していくと良いと思う。

入江部会員：発信先は限られてしまうので、発信には少し限界を感じており、うまく違った形で発信できると良いと思っている。

渡井部会員：足立区愛は、活動をしながら醸成されていくものなので、足立区生まれは関係ないと思う。足立区の下町の良さとして、人の良さが挙げられる。

中根部会長：アンケートを行うと、地域に貢献した意識はあるが、単独活動なので上手くいっていないようである。企業を結束させて街づくりに寄与していくことも必要だと思う。地域社会への貢献度は現在企業もCSRの一環として関心があるように思える。

FRI 高橋：最近、協議会活動は増えてきている。他都市の事例だが地元の中核的な企業にお兄さん役を担ってもらい、参加しやすいテーマを3つくらい決め、サークル活動のように勉強会を行っていき、具体的なプロジェクトも生まれつつある。中核的な企業に立ってもらえると、プロジェクトを具体的に進めていく際に行政もコミュニケーションしやすいと思う。

島田課長より挨拶があり、閉会。

以上